

# 特 集

## 第67回日本医学検査学会IN浜松

## 【会 期】

2018年5月12日（土）～13日（日）

## 【運 営】

学会長 山口 浩司（聖隷三方原病院：静岡県臨床衛生検査技師会会長）  
 実行委員長 伊藤 喜章（静岡厚生連遠州病院：静岡県臨床衛生検査技師会事務局長）  
 事務局長 藪田 明広（静岡県立総合病院：静岡県臨床衛生検査技師会副会長）  
 事務局 一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会  
 運営事務局 (株)JTBコミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部

## 【会 場】

アクトシティ浜松 〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1  
 オークラアクトシティホテル浜松 〒430-7733 静岡県浜松市中区板屋町111-2  
 ホテルクラウンパレス浜松 〒430-8511 静岡県浜松市中区板屋町110-17

## 【テーマ】

### Let's go this way —その道を進もう—

多様な役割のなかで、新たな存在価値を示す

## 【内 容】

招待講演Ⅰ：「Made in Mt. Fuji ふじのくに“ものづくり”支援システム」

～臨床現場のニーズを製品化する～

(一財)ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター センター長 植田 勝智  
 (司会：副学会長 三宅 和秀)

招待講演Ⅱ：「光の可能性を求めて —2026年、世界を変える『イ』を—」

浜松ホトニクス株式会社 代表取締役社長 晝間 明  
 (司会：学会長 山口 浩司)

教育講演：ひとを笑顔に導く！「笑いの五原則」

株式会社WMcommons Wマコト (中山 真・中原 誠)  
 (司会：実行委員長 伊藤 喜章)

公開講演：人間関係をつくるコミュニケーション力

明治大学文学部 教授 齋藤 孝  
 (司会：事務局長 藪田 明広)

一般演題：563演題（口演：537演題 示説：26演題）

特別企画

教育講演：10部門

基調講演：2部門（学会長・会長）

シンポジウム：15部門

フォーラム：2部門（臨床血液・輸血細胞治療）

ワークショップ：検体採取技術体験セミナー

国際学生フォーラム：6演題

ランチョンセミナー：5/12（土）13社 5/13（日）12社

スイーツセミナー：5/12（土）5社

企業展示：79企業

情報交換会

学術部門員を中心に企画した特別企画の一部を紹介します

臨床血液フォーラム 〈WHO分類2016 ～あなたの施設は対応していますか？〉

司会 聖マリアンナ医科大学病院 井本 清美  
静岡市立静岡病院 加茂川暢彦

WHO分類2016で知っておきたいこと ～臨床に必要な知識を把握しよう！～

NTT東日本関東病院 後藤 文彦

末梢血液像と骨髓像の実践的見方

～WHO2016で変更となった症例も入れ基礎から詳しく説明します～

獨協医科大学病院 新保 敬

【企画の趣旨】

2016年、WHO血液腫瘍分類の一部が改訂された。その中には日常検査で遭遇する可能性のある骨髓異形成症候群（MDS）、急性赤白血病（AML-M6a）が含まれている。

今回のセミナーでは、WHO血液腫瘍分類の変更点とそれに伴うMDSを中心とした分類方法をしっかりと把握し、施設内はもとより地域で情報が浸透することを目的とした講演をしていただく。

輸血細胞治療フォーラム 〈多様なニーズに応える輸血検査室を求めて〉

司会 静岡県立静岡がんセンター 梁瀬 博文

臨床から求められる輸血管理体制と対応能力

東邦大学医療センター大森病院 奥田 誠

輸血検査室におけるISO15189認定取得の意義

富山大学医学部付属病院 道野 淳子

【企画の趣旨】

臨床側から求められる検査室のニーズを考慮した場合、その種類は多様化していると考えられる。昨今ではISO15189の認定取得に伴う、高品質な検査結果を求めるような、臨床検査室の本来の姿も求められている。輸血検査室は製剤管理と一元管理することが求められているが、そのような中、特に臨床側から要求されるニーズは多様化しており、また、検査の品質向上は安全な輸血療法にもつながる。

盤石な管理体制を整えることは、施設の安全管理体制にも寄与するものになる。そのようなニーズに応えるような管理体制とは何か、昨今話題のISO15189の品質管理体制を含めて、業務管理体制について学ぶことを目標とする。

シンポジウム I 輸血 〈小規模医療機関（在宅輸血を含む）における輸血療法の問題点〉

司会 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 千葉 正志  
東邦大学医療センター大森病院 奥田 誠

小規模医療機関の輸血療法を考える医師の立場から

青森県立中央病院 北澤 淳一

小規模医療機関・在宅輸血の輸血療法としての看護の立場から

クレア訪問看護ステーション 大熊佳世子

輸血検査のminimum requirement

広島国際大学 国分寺 晃

輸血検査に関する問題点とその取り組み

～小規模医療機関（在宅を含む）における輸血ガイド小委員会の活動を中心に～

金沢赤十字病院 二木 敏彦

【企画の趣旨】

輸血療法を実施している医療機関の約80%は小規模医療機関である。小規模医療機関では、在宅輸血を含めた検査体制・輸血管理体制などに多くの問題点がある。問題点を明確にして、地域輸血検査体制の実態の把握および今後の展望について議論を行いたい。

血液型検査、交差適合試験を含む輸血検査のminimum requirementをどう考えるか。また、輸血用血液製剤の管理体制や輸血療法実施についての安全性確保についても議論を行いたい。我々、臨床検査技師が小規模医療機関や在宅医療における輸血療法をサポートしていける可能性がある。

**シンポジウムⅡ 精度管理** 〈法改正を受けての検体検査の品質・精度管理のあるべき姿〉

	司会 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 副会長	横地 常広
	日本臨床検査医学会／群馬大学大学院 医学系研究科臨床検査医学	村上 正巳
医療法・臨検法改正の経過		
	社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院	丸田 秀夫
遺伝子関連検査における法改正への取組と今後の展望		
	日本臨床検査医学会／浜松医科大学	前川 真人
ブランチラボ・衛生検査所における法改正への取組と今後の展望		
	日本衛生検査所協会／株式会社福山臨床検査センター	奥原 俊彦
日臨技における法改正への取組と今後の展望		
	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会	滝野 寿

**【企画の趣旨】**

平成28年10月19日、「ゲノム情報を用いた医療等の実用化推進タスクフォース」から「ゲノム医療等の実現・発展のための具体的方策について（意見取りまとめ）」が報告された。その中に示された遺伝子関連検査の品質・精度確保の必要性に端を発し、①医療機関及びブランチラボ・衛生検査所に業務委託される検体検査についての品質・精度管理、②遺伝子関連検査の品質・精度の確保、③検体検査分類の省令委任への変更と分類の見直し、以上の3点について整備するため医療法・臨検法の改正が行われた。本法改正によりEBMの根幹をなす検体検査の品質・精度が担保され、医療の質の更なる向上につながるものとする。現在でも省令内容の議論が行われているところであるが、今回は、本法改正の経過とともに、検体検査の品質・精度管理に関する改正事項に対する取り組みと今後の展望について議論したい。

**シンポジウムⅢ RCPC** 〈臨床検査技師による臨床検査技師のためのRCPC〉

	司会 浦和医師会メディカルセンター	神山 清志
	国立大学法人大阪大学医学部附属病院	堀田 真希
一般検査		
	さいたま市立病院	山浦 久
血液検査		
	山梨大学医学部附属病院	風間 文智
臨床化学		
	千葉県循環器病センター	末吉 茂雄
免疫血清		
	千葉県循環器病センター	齊藤 雅一

**【企画の趣旨】**

臨床検査技師として検査値を客観的に判読する目を養う。診断や疾患当てではない。

**シンポジウムⅣ 在宅** 〈在宅医療における臨床検査と臨床検査技師の医療ニーズ〉

	司会 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 会長	宮島 喜文
	医療法人社団杏生会 文京根津クリニック	任 博
在宅医療における医療ニーズと多職種連携への期待		
	厚生労働省医政局 地域医療計画課	松岡 輝昌
在宅診療医師による臨床検査（技師）の期待		
	在宅医療学会 理事長	藤澤 真一
在宅医療への検査技師の取り組み ～実践報告～		
	医療法人社団杏生会 文京根津クリニック	西成田睦未

**【企画の趣旨】**

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた取り組みとして政府は様々な政策を打ち出しているが、その施策の一つに在宅医療への積極的な推進があげられる。そこで今回のシンポジウムは在宅医療を積極的に推進している行政からは在宅医療の現状と、臨床検査技師も含めたそれらを取り巻く多職種連携について概況をお話しいただく。実際の在宅医療に従事している医師からは在宅における臨床検査（技師）に求められる検査や実際の運用などをお話しいただく。2人の発言を受けて臨床検査技師の立場からは日臨技理事として取り組んできた概況と今後の課題などを報告する。さらにパネルディスカッションでは在宅での臨床検査（技師）のニーズを見出し臨床検査技師の方向性を啓発していきたい。

**シンポジウムV 病理** 〈病理検査技師が活躍する新たなステージ

～先端医学の技術が未知なる病理の扉をひらく～

	司会 浜松医科大学医学部 再生・感染病理学講座	河崎 秀陽
	名古屋市立大学大学院 医学研究科	滝野 寿
がん個別化治療におけるコンパニオン診断法としての免疫組織化学染色	神戸大学大学院 保健学研究科病態解析学領域	嶋志田伸吾
血液疾患の染色体遺伝子検査と診療貢献	北海道大学病院	藤澤 真一
次世代シーケンスによるゲノム病理学	東京医科歯科大学難治疾患研究所 ゲノム病理学分野	石川 俊平

**【企画の趣旨】**

近年、医療技術の発展には目覚ましいものがあり、自施設で遺伝子レベルの検査が日常的に行われている。それに伴い患者の治療や予後予測に関わる重要かつ精度の高い検査技術が病理検査に従事する臨床検査技師に求められている。

本シンポジウムでは、免疫組織化学染色やFISH法、フローサイトメトリー法、リアルタイムPCR法といった遺伝子を標的とした技術および次世代シーケンスといった医療の質を向上させる先端医学技術を身近なものとして聴講者に再認識して頂き、今後病理検査技師に求められる技術として予備知識を深めたいと考えている。講師の先生方にはこれまでの基礎的な技術を始め、最新トピックスを紹介して頂き、病理に従事する検査技師の新たな活躍の場になりうることを、そして新たな存在価値をもたらすためにはどのような知識・技術が重要かを打診していただきたいと願う。

**シンポジウムVI 生理** 〈生理検査における精度管理と安全性の確保〉

	司会 社会福祉法人恩賜財団済生会 松坂総合病院	山本 幸治
心電図領域検査領域における精度管理と安全性の確保	帝京大学医学部附属病院	富原 健
呼吸器領域から	奈良県立医科大学附属病院	高谷 恒範
神経生理領域から	三重県立総合医療センター	坂下 文康
超音波検査の精度管理と安全性の確保	群馬県立心臓血管センター	岡庭 裕貴

**【企画の趣旨】**

臨床検査における精度管理は、信頼性の高い結果を臨床に提供するために必要な業務のひとつとなっている。

生理検査では個人差が大きく、分析器同様の精度管理は難しいが、生体を検査対象とするため、安全性を考慮した精度管理が必要である。今回の企画では、生理機能検査の各方面から、感染対策を含めた精度管理についてお話いただき、今後の業務の参考となることを期待する。

**シンポジウムVII 微生物** 〈微生物検査室に必要な遺伝子検査〉

	司会 東京医科大学 微生物学分野	大楠 清文
	浜松医科大学医学部附属病院	名倉 理教
簡単に始められる In House PCR	天草地域医療センター	磯崎 将博
筑波メディカルセンター病院での遺伝子検査の実際	筑波メディカルセンター病院	野竹 重幸
今まで行ってきた解析事例のトピックス	愛知医科大学病院	坂梨 大輔
耐性菌と遺伝子検査	神戸大学医学部附属病院	中村 竜也

**【企画の趣旨】**

微生物検査室における遺伝子検査の役割には、早期診断を目的とした病原微生物の早期検出および、同定が困難な菌に対しての遺伝子同定と耐性菌検出などが挙げられる。



磯崎先生には、In house PCRの有用性と導入について、野竹先生には実際にお使いになられている遺伝子（PCR）検査機器の使用経験について、坂梨先生には今まで解析された遺伝子検査の結果についてトピックスをご提示いただきたいと考えている。中村先生には耐性菌の遺伝子検査の重要性についてご教示いただきながら、様々な立場での微生物検査室における遺伝子検査について活発なディスカッションを予定している。

**シンポジウムⅧ 精度管理** 〈検査の委託や受託における精度管理向上を目指して〉

司会 株式会社福山臨床検査センター 奥原 俊  
 聖隷三方原病院 山田 哲司  
 当院細菌検査室の取り組み ～外部委託の立場から～  
 聖隷浜松病院 石原 冬馬  
 検査の委託や受託における精度管理向上を目指して ～病院からみた検査委託の精度管理～  
 聖隷三方原病院 北畑 友美  
 受託する立場から  
 株式会社シー・アール・シー 岩川 明子  
 登録衛生検査所の立場から  
 株式会社エスアールエル オペレーション部門集荷事業部 杉田 賢

**シンポジウムⅨ 生物化学分析** 〈共用基準範囲とJLAC検査項目コードの現在と未来：臨床検査データの有効利用に向けて〉

衛生検査所の立場から  
 株式会社福山臨床検査センター 奥原 俊彦  
 高度急性期、急性期病院の立場から  
 静岡県立総合病院 久住 裕俊  
 健診施設の立場から  
 岡崎市医師会公衆衛生センター 佐藤 美穂  
 統括講演：共用基準範囲とJLAC検査項目コードの重要性  
 司会 九州大学大学院医学研究院 臨床検査医学 康 東天

**【企画の趣旨】**

基準範囲は科学的手順に従い純粹に統計学的に決定され、日本に1つの筈だが日臨技サーベイでは項目毎に100種類前後が使用されており、医療連携と医療ビッグデータを用いた疾病・健康管理が重要な現在、ビッグデータ構築と有効利用出来るシステム構築が急務である。

検査値の時間的空間的比較性の保障、その判断基準の統一と項目コードの統一が必須であり、これら現状と問題点について病院、登録衛生検査所、健診施設、それぞれの立場でお話しいただきディスカッションしたい。

**シンポジウムⅩ 臨地実習** 〈多様なニーズに対応できる臨床検査技師の育成〉

司会 静岡医療科学専門学校 鈴木真紀子  
 岐阜医療科学大学 高崎 昭彦  
 基調講演  
 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 副会長 横地 常広  
 パネルディスカッション  
 北里大学病院 臨床検査部 三浦 芳典  
 昭和医療技術専門学校 山藤 賢  
 浜松医療センター 江間 千夏  
 静岡県立総合病院 大石 祐  
 他、若手技師及び学生が参加

**【企画の趣旨】**

臨地実習は、臨床検査技師の卒前教育において、非常に重要な位置を占める。しかし、内容などは各養成施設において統一はされておらず、受け入れ側である病院においても明確な縛りはない。今回の企画では、養成施設などカリキュラムの改正も踏まえながら、臨地実習について、現状の問題点についてそれぞれの立場から意見交換を行う。実際に臨地実習を経験した学生やこれから臨地実習に臨む学生の意見も取り入れながら、技師会、臨床現場、養成施設、学生が同じベクトルで未来に進めるよう、綿密

な連携を築く良い機会になることを期待する。

学生は、自らが目指す臨床検査技師の未来を技師会や臨床現場が、どう考えているのかを知る良い機会となる。是非、多くの未来を担う学生に参加していただき、共に臨床検査技師の未来を考えたい。

**シンポジウムXI がん医療** 〈がん医療のこれからを考える〉

司会 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 副会長 横地 常広  
 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 滝野 寿  
 がん対策推進基本計画（第3期）の概要について  
 厚生労働省健康局 がん・疾病対策課 丸野 正敬  
 認定病理検査技師の現状と展望 ～がん対策推進基本計画（第3期）を受けて～  
 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 滝野 寿  
 がんゲノム医療の概要について ～がんゲノム医療コーディネーターに期待するもの～  
 日本臨床腫瘍学会／慶應義塾大学医学部 消化器内科 浜本 康夫  
 ヴァーチャルスライドを活用したがん診断の展望  
 一般社団法人日本病理学会／  
 東京大学医学部附属病院 地域連携推進・遠隔病理診断センター 佐々木 毅

**【企画の趣旨】**

平成28年10月19日、「ゲノム情報を用いた医療等の実用化推進タスクフォース」から「ゲノム医療等の実現・発展のための具体的方策について（意見取りまとめ）」が報告された。その中に示された遺伝子関連検査の品質・精度確保の必要性に端を発し、①医療機関及びブランチラボ・衛生検査所に業務委託される検体検査についての品質・精度管理、②遺伝子関連検査の品質・精度の確保、③検体検査分類の省令委任への変更と分類の見直し、以上の3点について整備するため医療法・臨検法の改正が行われた。本法改正によりEBMの根幹をなす検体検査の品質・精度が担保され、医療の質の更なる向上につながるものとする。現在でも省令内容の議論が行われているところであるが、今回は、本法改正の経過とともに、検体検査の品質・精度管理に関する改正事項に対する取り組みと今後の展望について議論したい。

**シンポジウムXII 病棟業務** 〈患者・多職種から求められる病棟常駐臨床検査技師 ～各地の実践例～〉

司会 独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院 深澤 恵治  
 社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院 吉田 功  
 病棟業務専任チームという選択肢  
 熊本大学医学部附属病院 長島 美紀  
 全病棟横断して対応する専従配置という選択肢  
 医療法人社団富家会 富家病院 大竹 京子  
 急性期病棟への常駐配置という選択肢  
 関越中央病院 石井 智  
 マンパワー不足でも病棟業務に関わる意義  
 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 副会長 横地 常広

**【企画の趣旨】**

臨床検査技師の職域拡大や患者への安心安全を目的とした臨床検査技師による病棟業務推進は、その活動を強く啓発する意味で、多くの日臨技学会・支部学会などで病棟業務ミニシンポジウムとして開催し広く会員に周知したところである。今回のシンポジウムではそれら数多く実施した病棟業務ミニシンポジウムを総括するためのシンポジウムとして企画をした。シンポジストに各地から病棟業務を積極的に実践されている方々からの現状の報告と、当会の横地副会長から人手不足を解消するヒントを自身の経験をもとにした解決策の報告を聴講者へご披露して頂く。今回のシンポジウムを期に全国で臨床検査技師による病棟業務の推進が一層加速することを期待したい。

**シンポジウムXIII 遺伝子** 〈ゲノム医療への臨床検査技師の参画

～病理分野における次世代シーケンサーを用いたクリニカルシーケンス～

司会 千葉大学付属病院 糸賀 栄  
 クリニカルシーケンスの運用における課題と今後の展開について  
 国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 柿島 裕樹  
 病理・細胞診検体を用いたNGS解析と当院での取り組み  
 地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院 雨宮 健司

臨床検査技師がゲノム検査の道に進むときは ～必要なものと役割～

慶応義塾大学医学部 腫瘍センター 柳田絵美衣

**【企画の趣旨】**

遺伝子技術の発達とそれに基づくゲノム医療の普及は、疾患概念の変化や診断技術の向上、分子標的薬の開発に貢献してきた。

近年次世代シーケンサー（Next Generation Sequencer：NGS）による網羅的遺伝子解析が安価で提供可能となるに伴い、特にがん領域において病理検体より、多数の遺伝子解析を同時に行う臨床的シーケンスが注目されている。

この新技術の臨床検査への実用化にあたっては、検査精度の維持と臨床情報の管理を含め多くの取り組みが必要となる。

本シンポジウムでは、3つの施設における臨床的シーケンス導入にあたっての実際の取り組み・経験を紹介する。今後、導入を考えている施設の関係者には不可欠な内容である。

**シンポジウムXIV 検体採取 〈検体採取業務の院内実施の現状と問題点〉**

司会 三重大学医学部附属病院 森本 誠

鼻腔・咽頭からの検体採取への取り組み

聖隷浜松病院 石原 幹

臨床検査技師による皮膚採取の取り組み

富家病院 大竹 京子

当クリニックの検体採取について

～培養の為の検体採取方法からウイルス抗体キットを使用した検査まで～

医療法人社団柴山クリニック 鈴木 知子

**【企画の趣旨】**

検体採取業務が検査技師の業務範囲となり現実的に院内実施されている施設の現状を講演頂き、今後院内実施予定の施設の参考になれば幸いである。また、問題点（一般的採血者とインフルエンザ患者が隔離されていない等）を抽出し解決策を練る機会として考える。

**シンポジウムXV 一般 〈尿沈渣検査法JCCLS GP1-P4の改訂に向けて〉**

司会 東京女子医科大学病院 横山 貴

株式会社LSIメディエンス 山村 一志

改訂の概要

慶應義塾大学医学部臨床検査医学 菊池 春人

新規追加する成分について

東京大学医学部附属病院 宿谷 賢一

硝子円柱の鑑別基準案

藤田保健衛生大学 星 雅人

**【企画の趣旨】**

尿沈渣検査法のガイドラインであるJCCLS GP1P4は、各検査室における教本としてだけでなく、全国の検査施設の尿沈渣検査の標準化に大きく貢献してきました。そして、初版の発刊より約7年の歳月が流れ、その間に新たな知見も増え、尿沈渣にも更なる精度が求められてきています。

そこで、今回のシンポジウムでは現在JCCLSが改訂作業を進めている新しいガイドラインの改訂案について紹介して頂き、これからの尿沈渣検査について議論していきたいと思っております。

**教育講演 I (生物化学分析)**

司会 磐田市立総合病院 清水 憲雄

臨床検査の品格

浜松医科大学医学部 臨床検査医学講座 前川 真人

**【企画の趣旨】**

臨床検査は標準化されてきたとはいえ、測定法による違いはまだ残っている。その理由には測定対象が少しずつ異なっているものもあるわけであるが、臨床医にはわかっていないことがたくさんあり、臨床検査のプロが説明するべきである。他にも、臨床検査のプロとして身につけておいていただきたい礼儀作法にあたることについて、私見を述べたい。



**教育講演Ⅱ（生理）**

司会 厚生連松阪中央病院 中西 繁夫

マンモグラフィと乳房超音波検査の総合判定

静岡県立静岡がんセンター 乳腺画像診断科兼生理検査科 植松 孝悦

**【企画の趣旨】**

乳癌は日本人女性の11人に1人が罹患するとされており、自覚症状のない女性でも乳がん検診を受けることが推奨されている。日本初の大規模ランダム化比較試験「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験（J-START）」では、40歳代の女性においてマンモグラフィに超音波検査を加えることで早期乳がんの発見率が約1.5倍になるなどの結果が得られた。マンモグラフィと超音波検査を併用する場合には総合判定を行うことで、超音波検査による要精査率の上昇を抑え、乳癌発見に貢献できると考えられている。

今回の企画で、マンモグラフィと超音波検査の総合判定についてお話いただくとともに、超音波検査の有効性を検証するプロジェクトである『J-START』を含めた今後の乳がん検診の方向性についてもご講演いただく。

**教育講演Ⅲ（一般）**

司会 株式会社LSIメディエンス 山村 一志

マラリアの最新研究及び最新情報について やはり注目したいマラリアin 寄生虫症

浜松医科大学 ウイルス・寄生虫学講座 石井 明

**【企画の趣旨】**

マラリアは熱帯・亜熱帯の約100ヵ国以上で流行し、年間約2億人の罹患者及び約63万人が死亡する極めて重要度の高い寄生虫疾患である。また、日本においては土着マラリアこそ撲滅されたものの輸入マラリア等による年間報告例は50例前後あり、診断の遅れは致命的となることから検査技師にはマラリアを鑑別するための知識と技術が求められる。今回、浜松医科大学の石井 明准教授にマラリアについての最新トピックスについて御講演していただく。

**教育講演Ⅳ（遺伝子）**

司会 株式会社ビー・エム・エル 園山 政行

遺伝学からみた「いのち」とはなにか ～染色体遺伝子検査の理解と大切さを知る～

池内 達郎

**【企画の趣旨】**

染色体遺伝子検査のほとんどは、外部機関への委託にて実施されている。そのため結果解釈についての理解は難しいと捉えられているようである。池内先生に染色体遺伝子の基礎についてわかりやすく講義していただき、染色体遺伝子検査結果解釈と臨床診断等についての知識習得を図る。

「染色体の基礎」と「染色体検査の臨床応用」についてご講演いただき、最近の分子学的技法についても学習し、遺伝子染色体検査の重要性を知る好機とさせていただきます。

**教育講演Ⅴ（微生物）**

司会 三重大学医学部附属病院 中村 明子

AMR 対策における微生物検査室の役割

名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部 八木 哲也

**【企画の趣旨】**

薬剤耐性菌の問題が年々深刻化しているなか、国は2016年4月に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を取りまとめた。耐性菌の発生を遅らせ、拡大を防ぐために、医療をはじめ各分野への啓発活動、薬剤耐性の発生状況や抗菌薬の適正使用などについて2020年までの5年間で実施すべき事項をまとめた行動計画である。微生物検査室として取り組むべき課題をご提示いただき、今後の臨床検査技師の役割についてご講演いただく。

**教育講演Ⅵ（生物化学分析）**

司会 磐田市立総合病院 春口 公哉

検査室からの診療支援 ～聖隷浜松病院の取り組み～

聖隷浜松病院 臨床検査科 米川 修

**【企画の趣旨】**

臨床検査医として永年に渡って蓄積された「検査データの読み方」を事前に登録し、臨床検査システムから受信した検査オーダー・検査結果を解析ロジックに基づきリアルタイム自動解析する医師後方支援・医療安全貢献について講演頂きます。

専門外の疾病見落とし防止、疑い病名に対する追加検査の提案により診断の早期化、病院への信頼保障が期待されるシステムです。



**教育講演Ⅶ (生理)**

呼吸器疾患の病態から検査まで ～知っておきたい呼吸器疾患の知識～

司会 奈良県立医科大学附属病院 高谷 恒範  
滋賀医科大学 呼吸器内科 長尾 大志

**【企画の趣旨】**

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の患者数増加が懸念されている現在、呼吸機能検査は呼吸器疾患の診断に重要な検査となっている。しかしながら患者の病態を理解したうえで検査を行っている技師は多くないかもしれない。本講演では呼吸器疾患について、病態や呼吸機能検査以外の検査結果も併せてご講演いただく。

**教育講演Ⅷ (病理)**

病理医と病理検査技師のコミュニケーションの重要性

～信頼される病理の仕事、新たな環境づくりを目指して～

司会 焼津市立総合病院 田森 徹  
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也

**【企画の趣旨】**

我々技師は、一社会人としての基本的なマナーは知っている。  
しかし本当に出来ていると胸を張って言えるだろうか？  
挨拶やコミュニケーションの重要性など今一度見直すことで、仕事に対する姿勢や考え方など新たな視点で自身の行動を考え直す機会になればと考える。  
安全でやりがいのある病理検査のために、病理医と技師がどのような信頼関係を図り、情報を共有し、共感力を養うことが求められるのかを考える企画としたい。

**教育講演Ⅸ (血液)**

リンパ腫 up to date ～検査技師が知っておきたいkey point～

岡山大学医学部 保健学科病態検査学講座 佐藤 康晴

司会 三島総合病院 大橋 勝春

**【企画の趣旨】**

近年、増加傾向を示す悪性リンパ腫について、特に押さえておくべき形態学的特徴やフローサイトメトリーを始めとした検査結果解釈の要点について講演していただき、日常検査からの臨床支援を目指します。また、基礎的な概要から統計、悪性度による分類、医師の視点から見る臨床症状等、多岐に渡り解説していただきます。

**行列のできるスキルアップ研修会**

**スキルアップセミナー1 病理細胞**

〈病理検体取扱いマニュアルの神髄を探る

～マニュアルに込められた想い、そして新たな未来へのメッセージ～

司会 浜松医療センター 院長補佐 小澤 享史  
静岡赤十字病院 山田 清隆

**【基調講演】病理検体の重要性をめぐる諸問題**

大阪大学大学院 医学系研究科病態病理学 森井 英一

内視鏡検査介助者からみた病理検体の取り扱いについて

磐田市立総合病院 榛葉 由佳

日常業務とマニュアル遵守の間にある理想と現実・標準化に向けた取り組み ―病理検体の受付―

富士市立中央病院 渡邊 広明

日常業務とマニュアル遵守の間にある理想と現実・標準化に向けた取り組み ―病理検体処理～薄切―

静岡県立総合病院 岩崎 朋弘

デジタルパソロジーがもたらす未来と、求められる役割

浜松医科大学医学部附属病院 栗田 佑希

「病理検体取扱いマニュアル」を業務工程フロー図に落とし込む

―目的達成のためのプロセスの可視化と活用方法―

株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院 検査技術科 根本 誠一

**【企画の趣旨】**

日本病理学会病理検体処理ガイドラインワーキンググループは、昨年、病理検体を扱うすべての者を対象とした「病理検体取扱いマニュアル」を監修した。本マニュアルは検体取り扱いにおける標準化の先駆的なものと思われ、実際に業務フローに組み込んだ実績をお持ちの、ひたちなか総合病院 根本誠一技師にその実情を講演して頂きたいと考えている。

また、県内施設の現状を紹介し、今一度自施設のマニュアルと比較検討することで、安全かつ安心できる病理業務を実現していく意識・業務改革に繋げる事を目的としたい。

さらに、総論としてマニュアル監修に携わられた大阪大学 森井英一先生に病理検体取扱いマニュアルに込められた想い、そしてこれからの業務にどのような影響を望まれるのかをご講演頂きたいと考えている。

**スキルアップセミナー2 臨床血液**

〈末梢血液検査をマスターし、血液疾患を見落とさない知識を身につけよう！〉

	司会 三島総合病院 沼津市立病院	大橋 勝春 杉澤きよ美
血算の基礎 ～実践に必要な知識～ 誤報告をしないために		
	遠州病院	市川佐知子
血球分析装置から判る血液疾患の見方・考え方・血液像の形態		
	東京大学医学部附属病院	常名 政弘
末梢血液像観察のポイント ～基礎的な見方・所見のとり方～		
自動血球分析装置の上手な活用方法	聖マリアンナ医科大学病院	井本 清美

**スキルアップセミナー3 生物化学分析**

〈認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師の為の講習会〉

	司会 磐田市立総合病院	春口 公哉
精度保証の基本①（精度保証の全体体系、バリデーション、勧告法）		
	熊本保健科学大学 保健科学部	池田 勝義
精度保証の基本②（精度管理と精度保証、検査データの臨床的有用性）		
	学校法人中部大学	松本 祐之
検査室内部の精度保証体制の整備		
	東北医科薬科大学病院	小堺 利恵
外部精度管理および地域における精度保証		
	産業医科大学病院	早原 千恵
免疫検査の精度保証		
	東京慈恵会医科大学附属第三病院 中央検査部	阿部 正樹
診療現場・チーム医療における精度保証		
	学校法人天理よろづ相談所学園 天理医療大学	畑中 徳子
ISO15189を用いた精度保証		
	徳島大学病院 診療支援部	中尾 隆之

**【企画の趣旨】**

2014年に設置された「臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師」認定制度は、臨床化学・免疫化学の進歩・発展を図ることを目的とし、学術的側面から実践的な側面をもち、分析化学から臨床医学までを広く包括することが求められている。昨今、医療の地域連携により医療情報は患者とともに病院から病院へと移動していく時代のおとずれとともに検査情報の共有化が必要とされ、すべての医療機関に利用できるJCCLS共用基準範囲（2013. 3. 31に公表）の導入が求められている。

このような背景のもと、本制度は化学的分析手法を用いた測定法全般の技術開発やデータの医療・環境保全・食品安全等への提供、さらには疾病の病因・病態の解明や治療・予防への寄与を目指しており、こうした精度保証体制の確立と維持管理を担う技師の育成を目的として本セミナーを開催する。

**スキルアップセミナー4 認定救急検査技師**

〈救急診療の安全性を考える ～事例に学び、経験値を上げる！～〉

	司会 川崎医科大学附属病院 中央検査部微生物検査室 大阪府三島救命救急センター 医療技術部検査科	河口 豊 竹下 仁
--	---	--------------

初期診療の安全性について ～チーム医療のあり方～

社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院 救急科 寺坂 勇亮  
救急医療における輸血業務の安全性について ～事例を中心に検証する～

新潟県立十日町病院 検査科 高橋 政江  
院内感染対応

三重大学医学部附属病院 中央検査部／感染制御部 中村 明子  
中毒症例における二次被災の防止について

株式会社ファルコバイオシステムズ草津総合病院ラボラトリー 福田 篤久

#### 【企画の趣旨】

救急医療の本質は緊急性の高い患者に、一刻も早く処置・治療を施すことにある。一方で、救急医療という医療特性に由来する医療事故の危険性が高いことも事実である。すなわち、緊急性に従属する時間的制約や情報不足、重症度に伴う侵襲度合いの高さ、ヒトやモノの質と量の不足などのさまざまな危険因子を抱えている。安全性の構築は極めて重要な課題であり、救急医療の標準化の推進、チーム医療の充実など行政や学会などを主体とした組織的取り組みがなされている。

このような背景において、臨床検査技師が救急医療の現場に関わり始めた今日の現状において、救急医療における安全性について、知識・技術の習得は不可欠であるとの認識から本セミナーを企画した。

救急医療における安全性についての概論と臨床検査に関連性の高い分野における事例を紹介いただき、救急医療における危険因子の把握と安全性を担保するために必要な知識・技術を共有し、個々の取り組みの一助となることを期待する。

### スキルアップセミナー5 認定認知症領域検査技師

〈極めよう！神経心理検査〉

司会 JCHO群馬中央病院 深澤 恵治  
臨床心理士から見る神経心理検査の実際

鳥取大学大学院医学研究科 臨床心理学専攻 竹田 伸也  
臨床および研究での神経心理学的検査の活用

国立長寿医療研究センター 櫻井 孝

#### 【企画の趣旨】

臨床検査技師による神経心理検査を広める意味において、実際の検査を行っている臨床心理士の立場から神経心理検査のピットフォールを教示していただくこと。さらには国立長寿医療センターの櫻井先生による臨床での活用方法を教授していただき臨床検査技師としての認知症領域の知識をより一層深めていくものとする。

### スキルアップセミナー6 POCセミナー

〈事件は現場で起きている！その血糖測定、大丈夫？ ～血糖測定におけるピットフォールを学ぶ～〉

司会 春日井市民病院 後藤 慎一  
西知多総合病院 服部 聡

【基調講演】周術期における血糖管理の重要性について

血糖モニタリングの視点での考察

春日井市民病院 佐々木洋光  
血糖測定の現場に潜む危険 どう伝える？

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷リバーサイド病院 中川 裕美  
〈実習〉

国内で発売されている代表的なPOCT対応血糖装置を利用して誤った測定を行い、何が問題かを検証し、安全かつ正確な血糖測定方法を学ぶ。

司会 株式会社ビー・エム・エル 山崎 家春

#### 【企画の趣旨】

平成28年の「国民健康・栄養調査」では糖尿病有病者とその予備群を合わせると2,000万人と報告された。また、入院患者の高齢化が進み、併存症として糖尿病を患う患者も多くみられることから、ベッドサイドでの血糖測定の必要性が増すことが推測される。今回は、講演にて周術期の血糖管理の重要性を学び、実習では安全な血糖測定を実施するためにはどんなピットフォールが潜んでいるか学び、POCコーディネータとして血糖装置利用者へ安全な血糖測定を指導できる人材育成を目的に本セミナーを開催する。

### スキルアップセミナー7 臨床生理

〈実践で役立つ超音波検査〉

	司会 静岡県立こども病院	藤下 真澄
伝授!! 私の左室壁運動評価方法		
	群馬県立心臓血管センター 技術部	岡庭 裕貴
頸部動脈ガイドラインの変更も含めて		
	有隣厚生会 富士病院	木下 龍男
腹部エコーのステップアップに必要な基本と臨床応用		
	静岡県立静岡がんセンター 生理検査科	南里 和秀

#### 【企画の趣旨】

超音波検査は現在の医療にとってはなくてはならない検査となっている。

各分野でご活躍されている先生方に、実践で役立つ内容・検査側から臨床へアピールするポイントなど、最近注目されている内容もふまえてご講演いただく。

超音波検査に携わる方々の、日常業務の疑問点の解決や明日から行う検査の自信に繋がるような研修にしたいと考える。

### スキルアップセミナー8 臨床一般

『臨床の知りたい』に答える これからの一般検査

	司会 岐阜赤十字病院	林 晃司
	社会医療法人宏潤会大同病院	浅井 千春
	名古屋第二赤十字病院	安土みゆき
	株式会社エスアールエル静岡事業部 静岡がんセンター	新村 尚美
腎移植後BKウイルス腎症 ～臨床医の悩みと検査部門への期待～		
	福岡大学医学部腎臓・膠原病内科学	升谷 耕
新たな尿中結晶成分キサンチン結晶		
	国立大学法人 神戸大学医学部附属病院	大沼健一郎
髄液 一目置かれる結果報告を目指して		
	諏訪中央病院	保科ひづる
臨床が知りたい! Fabry病の早期診断と治療に役立つマルベリー細胞・小体の情報		
	東京女子医科大学病院	横山 貴

#### 【企画の趣旨】

我々が検査業務に従事する傍らで新たな医学情報が日々見出されており、それに伴い臨床から検査室へ求められることは増えてきている。臨床一般検査の部門において臨床が欲していることは何かをテーマとし、検査知識の更新を図る。

### スキルアップセミナー9 臨床微生物

〈質量分析・PCRがあっても欠かせない従来の同定法〉

	司会 聖隷浜松病院	釋 悦子
	中東遠総合医療センター	上村 桂一
VITEK MSの使用経験 3類感染症, 食中毒起因菌を中心に		
	静岡市立静岡病院	杉本 直樹
MALDIバイオタイパーの使用経験 ～導入後1年の経験から～		
	市立島田市民病院	栗田 泉
遺伝子同定の前に押さえていただきたい基本性状		
	東京医科大学 微生物学分野	大楠 清文
忘れてはいけない性状確認		
	東京大学医学部附属病院	佐藤 智明

#### 【企画の趣旨】

ここ数年、質量分析装置 (TOF-MS) による同定が普及した。質量分析装置およびPCRを使っても、従来の性状確認培地による確認は不可欠なことがある。

このセッションでは、シンポジウム形式にて立場の異なる検査技師からそれぞれの経験談を交えながら、質量分析装置やPCRがあっても必要不可欠な性状確認培地をもう一度見直していく。

今後、質量分析装置やPCRの導入を検討している施設だけでなく、微生物検査の初心者にも必要な性



状確認についても参考となりうる情報提供を行いたい。

## スキルアップセミナー10 輸血細胞治療

〈輸血検査の定石と最善の一手〉

司会 静岡済生会総合病院 中野 翔太  
 カラム凝集法の特徴を理解したイレギュラー反応の考え方  
 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社 診断薬カスタマーサポート部 小黒 博之  
 直接抗グロブリン試験陽性時における輸血検査と対応  
 東邦大学医療センター大森病院 日高 陽子

### 【企画の趣旨】

昨今の輸血検査の動向として、自動分析器の普及が進んでおり、数年前から全国的に半数を超える状況となっている。また輸血検査では自己抗体を保有する患者の輸血で悩まされることもあり、追加検査の種類、対応も多岐にわたることが多い。

輸血自動機器ではカラム凝集法が採用されることが多い状況の中、この方法での検査の特性等を捉えつつ、異常反応がみられた場合に経験則から、検査を次の展開へもっていくことも増えている。

これらの分析能力、判断能力、決断力を養いスキル向上として本企画を提案し、少しでも多くの方に理解を広め、速やかに適合血を準備できる輸血検査室と人材育成を目標とする。

## スキルアップセミナー11 染色体遺伝子

〈資格試験にチャレンジ!! 「染色体遺伝子検査認定資格を取ろう!」〉

司会 国立がん研究センター 若井 進  
 認定臨床染色体遺伝子検査制度・認定試験（遺伝子分野）を受験して  
 静岡赤十字病院 山崎 大央  
 認定臨床染色体遺伝子検査制度・認定試験（染色体分野）を受験して  
 公益財団法人天理よろづ相談所病院 中川 美穂  
 日本人類遺伝学会認定資格・細胞遺伝学認定士を受験して  
 有限会社胎児生命科学センター 鈴木 翔太  
 遺伝子分析科学認定士制度・初級認定試験を受験して  
 静岡県立総合病院 菅沼 涼平

### 【企画の趣旨】

遺伝子異常と疾患との関連が解明され、さらに分子標的治療薬の開発とコンパニオン診断薬等、遺伝子関連検査は様々に展開されている。そのような中、遺伝子関連検査については院内実施の有無にかかわらず、適正な検査依頼～検体の取り扱い～結果の解釈までの知識習得は必須であると考え。実際の業務でないことから、遺伝子検査については難解のように捉えられているようであるが、遺伝子検査への知識習得の手段として各種認定試験取得への取り組みを勧めたい。